平成３０年度
病院事業計画について

１）病院事業計画のまとめ

２）直近５年の経営実績

令和元年10月1日

荒尾市民病院　経営企画課

◆目　次

＊主な数値は決算統計を基に算出しています。

１章　病院事業計画のまとめ

１）主な取り組み

総　評

今年度の主な取り組みとして、下記の３つを主に実践し、結果を残す事ができたと考える。
また、経営においては平成21年度より10期連続で単年度黒字を計上しており（平成26年度は会計制度の変更により赤字であったが、実質黒字である。）、平成30年度は前年度と比べ外来収益で約2,594千円の減収となったが、入院収益で約84,055千円の増収があったため、142,910千円の純利益を計上することができた。
累積欠損金は、平成20年度に最大4,255,501千円あったが、毎年度順調に解消しており、平成30年度末には830,637千円まで減らすことがとができた。
今後も継続して第二期中期経営計画を基に、地域完結型医療の提供体制の維持、また、新病院建設へ向けて、収益の確保と費用削減を徹底し、経営の健全化を目指す。

1) 新病院建設

新病院建設に向けて基本計画の策定

平成29年度に新病院建設地が決定したことに伴い、新病院建設基本計画（案）の加筆、修正等を実施し、平成30年6月29日に「新病院建設基本計画」を策定した。
また、同年11月14日には、建設整備基本・実施・造成設計業務に伴い実施した公募型プロポーザルにおいて最優秀提案事業者との契約を締結した。
それに伴い、院内では各種設計に着手しており、設計者による院内ワーキンググループのヒアリング等を実施しているところである。

2) 職員確保

医師数50名熱望　　将来職員の確保

医療の高度化及び患者サービスの向上のため、将来を見据えて強化を行った。医師については、皮膚科の常勤医師2名、外科、整形外科、脳神経内科の常勤医師が各1名入職し、合計医師数が42名となった。また、基幹型臨床研修病院として7名、協力型として4名の研修医を受け入れることができた。
そのほか、奨学金制度活用において、奨学生として医学生16名、看護学生21名への貸付けを継続しているところである。

3) 医療機器の整備

医療機器の導入及び更新と現有品調査

最新のＸ線骨密度測定装置を導入、２Ｄ内視鏡システム、一般撮影間接ＦＰＤ装置、下肢牽引機能付き手術台、プラズマガス滅菌器等の更新を行った。
また、生化学検査においては従来より高性能な自動分析装置2台、免疫測定装置、搬送装置をＦＭＳに組み込む委託契約にて更新した。
さらに、医療機器整備計画策定のための事前調査業務を平成30年11月28日に委託契約し、平成31年3月末までに実施し、医療機器の現有品調査を行った。

１章　病院事業計画のまとめ

２）医業収益の確保

ｉ）患者数等

区分	平成29年 実績　A	平成30年 目標　B	平成30年 実績　C	前年実績 対 差引　C-A	目標 対 差引　C-B
入院患者数	229.4　人/日	237.0　人/日	230.6　人/日	1.2　人/日	△ 6.4　人/日
新規入院患者数	3,979人	－	4,210人	231人	－
年間平均在院日数	16.0日	15.0日	15.4日	△0.6日	△0.4日
入院診療単価	47,383円	48,839円	48,182円	799円	△657円
外来患者数	355.6　人/日	370.0　人/日	348.6　人/日	△ 7.0　人/日	△ 21.4　人/日
外来診療単価	17,721円	18,046円	18,049円	328円	3円
病床稼働率(274床)	83.7%	86.5%	84.2%	0.5%	△2.3%
(256床)	89.6%	92.6%	90.1%	0.5%	△2.5%

＊274床・・・許可病床　　＊256床・・・実稼働病床

入院について、平成30年度の１日平均患者数は前年度比1.2人増の230.6人となった。新規入院患者数では、前年度比231人増の4,210人となり、病床稼働率においても前年度比0.5%増の84.2%（274床）となった。

また、患者1人1日当たりの診療単価は、前年度比799円増の48,182円となり、全ての数値において前年度を上回る良い結果となった。

しかし、予算目標値との比較では、1日平均患者数において6.4人減、診療単価において657円の減となり、年間平均在院日数においても0.4日届かず目標値を達成することはできなかった。

外来について、平成30年度の1日平均患者数は前年度比7.0人減の348.6人に留まった。常勤医師の増加に伴い増加する予定であったが、昨年に引き続いての減少となった。

また、診療単価は前年度比328円増の18,049円となり、前年と同等の医業収益を確保することができた。

しかし、予算目標値との比較では、1日平均患者数において21.4人減となり目標値に遠く及ばなかった状況である。また、診療単価については、3円増と微増となった。

１章　病院事業計画のまとめ

２）医業収益の確保

ⅱ）診療単価のUP

①DPCの機能評価係数ＵＰ

区分		H29.4	H30.4	H31.4	前年増減
基礎係数		1.0296	1.0314	1.0314	－
暫定調整係数		0.0199	－	－	▲ 0.0199
機能評価係数Ⅱ	小計	0.06550	0.08802	0.08207	▲ 0.0060
機能評価係数Ⅰ	小計	0.2107	0.2413	0.2448	0.0035
合計		**1.3257**	**1.3607**	**1.3583**	**▲ 0.0224**
参考	公立玉名中央病院	1.3296	1.3739	1.3655	▲ 0.0084
	大牟田市立病院	1.3820	1.4260	1.4299	0.0039
	公立八女総合病院	1.3991	1.4778	1.4696	▲ 0.0082
	筑後市立病院	1.3109	1.3866	1.2827	▲ 0.1039
	福岡市民病院	1.3413	1.3819	1.4145	0.0326

平成30年度には、医療機関別係数において機能評価係数Ⅰでは感染防止対策加算（抗菌薬適正使用支援加算）を取得し0.0035ポイント増加させることができた。
しかし、機能評価係数Ⅱにおいては、全国的な在院日数の短縮及び係数の引き下げの影響もあり、合計0.00595の減となった。
また、地域医療係数の0.00109の増においては、当院で脳卒中【血管内治療】の急性期診療実績の評価で実績がなかったための減。さらに、救急医療係数において、救急車受け入れからの入院患者数は増加したが、救急医療管理加算１の件数が76件減少したこと、及び救急医療管理加算２の係数への評価が下がったことによる影響が考えられる。
これらの結果、平成31年度4月時点の医療機関係数は1.3583となり、前年同月比0.00224の減となった。「参考」に示す近隣の5自治体病院と比べても、係数の下がり幅が大きくなっていることがわかる。
今後収益確保において、医療機関別係数を増又は維持するために係数ダウンの要因分析及び職員間での情報の共有が必須課題であり、今後も施設基準の取得及び上位加算の取得などにより、診療内容を充実させ医業収益の確保をしなければならない。

②在院日数の短縮　（日）

区分	H29	H30目標	H30	前年増減
平均在院日数	16.0	15.0日	15.4	▲ 0.6
新規入院患者（人）	3,979	4,440	4,210	231
退院患者数（人）	3,990	－	4,186	196

本年度は、前年と比較して新規入院患者数は231人、退院患者数は196人と共に増加している。さらに、平均在院日数は昨年と比べ0.6日減少させ15.4日となり短縮することができた。
しかし、目標数である新規入院患者数4,440人には230人及ばず、在院日数15.0日には0.4日及ばなかった。
目標値である15.0日を目指すには、現在非常に適用率が低いパスの充実・実施や退院支援の強化等により回転率を向上させる必要がある。
今後も、目標数に達するような新規入院患者数を確保することで、平均在院日数の短縮、病床稼働率の向上、患者1人1日当たりの診療単価の向上に繋げ、「より効率的な経営」を実践しなければならない。

１章　病院事業計画のまとめ

３）経営の効率化

ｉ）人件費の適正化

①診療技術部（薬剤科、検査科、放射線技術科）への交代制勤務導入

平日夜間及び休日における救急医療（主に救急外来）に対応するための、診療技術部（薬剤科、検査科、放射線技術科）の勤務体制は、待機・呼出し勤務として対応を行っていた。救急外来における患者の状況は、この１０年程度で、搬送数も多くなり患者の重症度も高くなる傾向にあり、また、季節や日によっても大きく差があり、待機勤務で対応することは徐々に困難になってきていた。

このような中、診療技術部３科（薬剤科、検査科、放射線技術科）と共に勤務体制の改善を検討し、平成３０年８月から、交代制勤務を導入した。

目的は、①救急医療体制の充実、②勤務体制の改善である。交代制勤務の導入にあたり、労働時間の増加が見込まれたため、【案１】各所属へ職員を各2名増員し対応、【案２】現在の職員数で不足時間数は時間外勤務として対応、のいずれかで対応することとした。各所属で協議をされ、人件費を最小限で抑えるべく、【案２】で運用される選択をされた。

交代制勤務導入前後の時間外勤務の状況は、下記表のとおりである。いずれの部署も、職員1人に満たない程度の時間外勤務の増加に留まった。

所属	月平均残業時間の状況			
	施行前の期間	施行後の期間	増分（労働時間）	
薬剤科	231.5 時間	356.8 時間	125.3 時間	0.77人相当
検査科	325.8 時間	405.4 時間	79.6 時間	0.49人相当
放射線技術科	267.8 時間	392.4 時間	124.6 時間	0.77人相当

今回の対応については、最小限の人件費で、救急医療体制の充実を図ることができ、さらに、この対応方法を各所属が主導で決定したことは、病院運営上も非常に効果的であったと評価する。

今後は、職員の健康状態についても配慮するよう、恒常的な時間外勤務への対策も行いたい。

②昇任選考試験制度の導入（対象：医師を除くすべての職員）

これまで、職員の昇任については、勤務成績や適任性等により判断し行ってきたが、明文化された基準や仕組み等が無い状況であった。

そこで、昇任の仕組みや基準等の透明化を図り、全職員へ明確に示すことを目的として、昇任選考試験制度の導入を行った。（「荒尾市民病院事業職員の昇任選考に関する実施要綱」平成３１年３月公布、平成３１年４月１日施行）

主なポイントは、昇任選考の要件に「人事評価制度（平成２８年４月より施行）」を活用したこと、書類審査による試験を行うようにしたこと、中でも、管理職以上の昇任試験については、面接試験を実施することである。

実際には、平成３１年度から実施し、昇任者が決定していくこととなる。

今後も、公平公正な人事管理を行い、組織の活性化に繋げていきたい。

１章　病院事業計画のまとめ

３）経営の効率化

ⅱ）材料費の削減

①薬品費削減　（円）

区分	H29	H30目標(予算)	H30	前年増減
値引率	14.5%	15.0%	13.0%	-1.5%
後発品医薬品目割合	26.6%	30% 以上	27.6%	1.0%
後発品医購入金額割合	11.0%	-	11.6%	0.6%
後発品使用量割合	87.0%	80% 以上	90.7%	3.7%
医業収益比率（薬品）	12.4%	13.2%	12.5%	0.1%
薬品費	728,935,985	820,000,000	744,156,125	15,220,140
医業収益	5,871,438,213	6,229,697,000	5,967,591,071	96,152,858

価格交渉による値引率は13.0%となり目標である15.0%は達成することができず、さらに、前年より1.5%下回ることとなった。
後発医薬品に関しては、品目割合及び購入金額割合、使用量割合全てにおいて前年を上回る結果となった。
結果として、薬品の医業収益比率は目標である13.2%と比較して0.7%減少し、前年と同等程度とすことができた。
今後も継続して後発医薬品の割合、使用量共に増やし、薬品費の対医業収益比率をさらに減らしていく必要がある。

②医療材料費の医業収益比率　（円）

区分	H29	H30目標(予算)	H30	前年増減
材料費	1,195,697,479	(1,317,700,000)	1,240,044,930	44,347,451
うち薬品費	728,935,985	(820,000,000)	744,156,125	15,220,140
うち診療材料費	457,804,992	(485,700,000)	485,076,225	27,271,233
医業収益	5,871,438,213	(6,229,697,000)	5,967,591,071	96,152,858
医業収益比率 ： 材料	20.4%	21.2%	20.8%	0.4%
うち薬品	12.4%	13.2%	12.5%	0.1%
うち診療材料	7.8%	8.0%以下	8.1%	0.3%

医業収益を前年と比べ約10,000万円増やすことができたことに伴い、薬剤費で約1,500万円、診療材料費は2,700万円の増加となっている。
また、予算と比較すると薬品費で0.7%の大幅な減少があったこともあり、材料費全体で0.4%の減少につなげることができた。
しかしながら、昨年の実績と比較すると、薬品費では薬価改定の影響もあり昨年同等、診療材料は0.3%の増加となり、全体で0.4%の増加となった。
今後も継続的に材料の価格交渉を実施し、医療収益比率を抑え利益率の向上を目指さなければならない。

１章　病院事業計画のまとめ

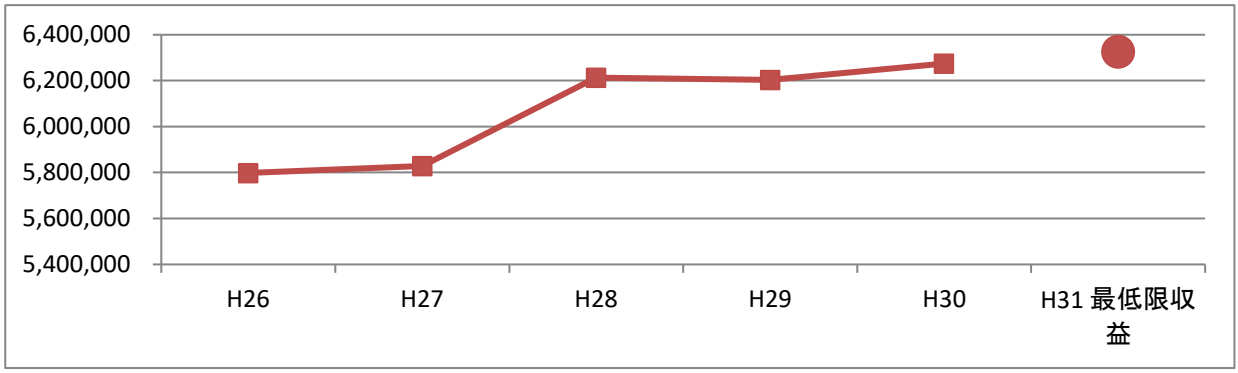
３）経営の効率化

ⅲ）戦略的経営の実施

H31目標純利益　71,234千円

損益分岐点の分析による次年度の経常収益管理　（千円）

区分	H26	H27	H28	H29		H30	H31 最低限必要な収益
				当院	黒字病院(274床)		
経常収益	5,798,250	5,828,884	6,213,189	6,203,070	8,003,714	6,274,049	6,325,445
変動費	1,137,180	1,139,465	1,266,812	1,195,697	2,034,656	1,240,045	1,247,260
固定費	4,369,698	4,501,581	4,533,363	4,732,051	5,682,600	4,889,509	4,889,509
限界利益	4,661,070	4,689,419	4,946,377	5,007,373	5,969,058	5,034,004	5,078,185
経常利益	291,372	187,838	413,015	275,322	286,458	144,495	
限界利益率	80.4%	80.5%	79.6%	80.7%	74.6%	80.2%	
損益分岐点	5,435,791	5,595,403	5,694,398	5,862,005	7,619,611	609,396	
FM比率	93.7%	96.0%	91.7%	94.5%	95.2%	97.1%	



限界利益率が高いほうが経営的には利益が上がりやすいため、固定費の削減や変動費(率)の削減に力を入れる必要がある。なお、全国黒字病院と比較しても、約5%高い結果となり、効率的に経営ができている。

しかし、FM比率は平成29年度のFM比率に比べ平成30年度は97.1%と2.6%も悪化し、昨年度とは逆に黒字病院と比較しても利益出にくい経営状況へなっている。

上記内容の要因としては、新病院へ向けた職員の増員による人件費の増加、建設に関する委託費など固定費の増加が主な要因である。新病院建設移転まで、人件費及び委託費の増加、予期しない支出などが見込まれるため、安定した経営には少しでも多くの利益を追求する必要がある。

なお、平成３０年度の目標を達成するために、経常収益6,325,445千円を必ず確保しなければならない。

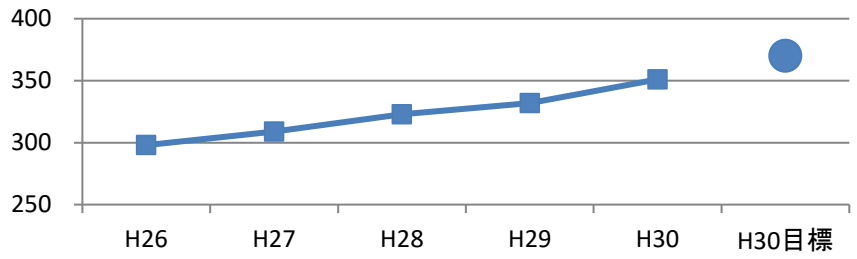
【固定費】 患者の増加に関係なく必要な費用　（給与費、経費、研究研修費・・・・等）
【変動費】 上記以外の患者数により増加する費用（材料費）
【限界利益】 患者数が0人の時でも、最低限必要な金額　（経常収益-変動費）（利益+固定費）
【限界利益率】 売上高に対する限界利益の割合であり、率が高いほど利益が増加
【FM比率】 固定費の限界利益に対する比率であり、率が低いほど効率的な経営

２章　直近５年の経営実績

１）主な経営指標の推移

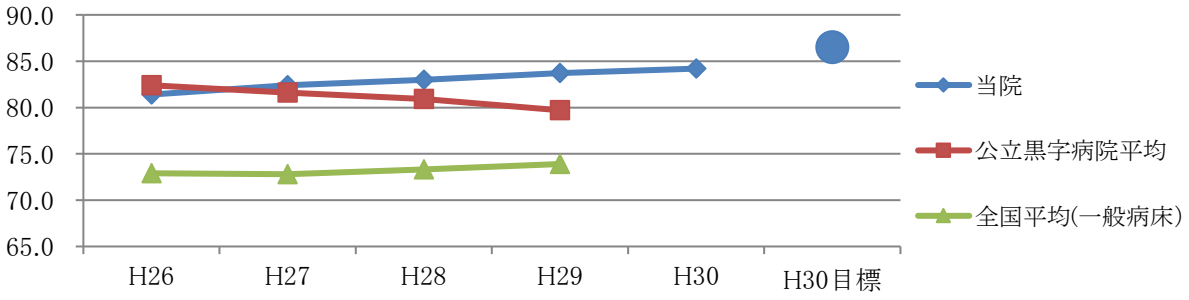
（１）新規入院患者数の増加　　（人/月）

区分	H26	H27	H28	H29	H30	H30目標
月平均	298	309	323	332	351	370



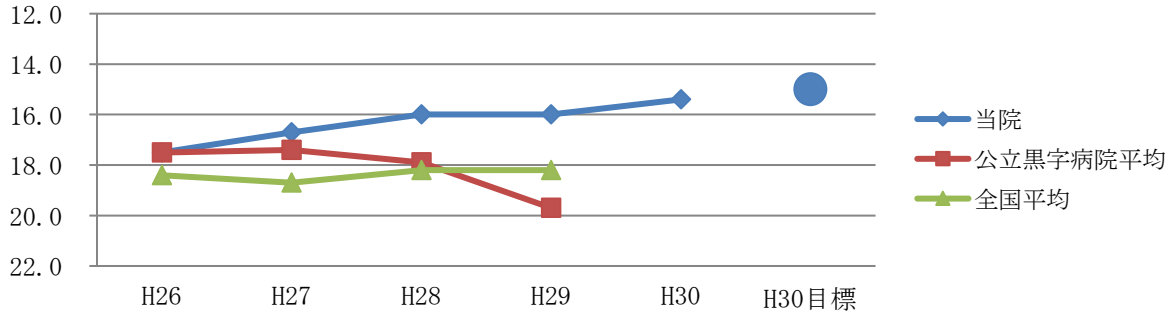
（２）病床稼働率（274床）　　（%）

区分	H26	H27	H28	H29	H30	H30目標
当院	81.4	82.4	83.0	83.7	84.2	86.5
公立黒字病院平均	82.4	81.6	80.9	79.7	－	－
全国平均(一般病床)	72.9	72.8	73.3	73.9	－	－



（３）平均在院日数(一般病床のみ)　　（日）

区分	H26	H27	H28	H29	H30	H30目標
当院	17.5	16.7	16.0	16.0	15.4	15.0
公立黒字病院平均	17.5	17.4	17.9	19.7	－	－
全国平均	18.4	18.7	18.2	18.2	－	－

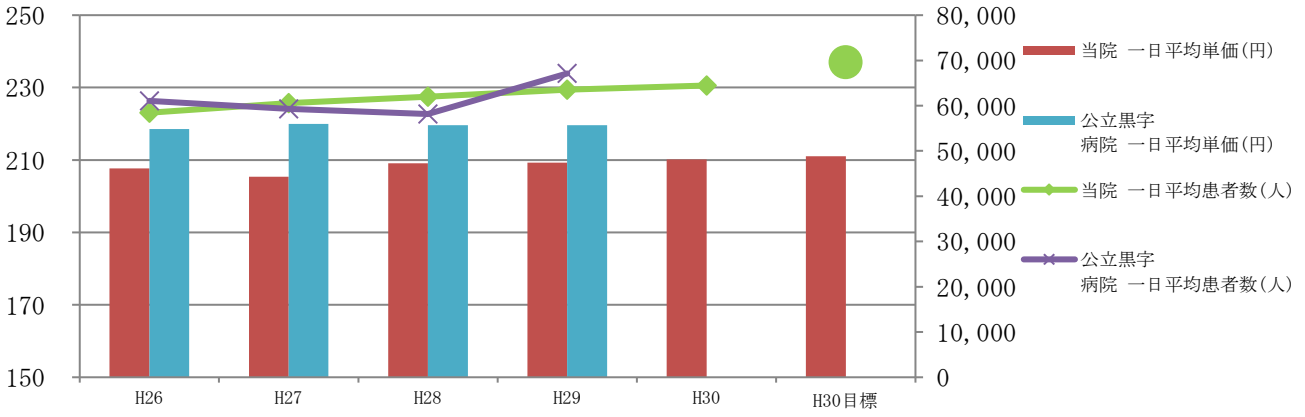


２章　直近５年の経営実績

１）主な経営指標の推移

（４）入院患者数等　　＊公立黒字病院は274床換算

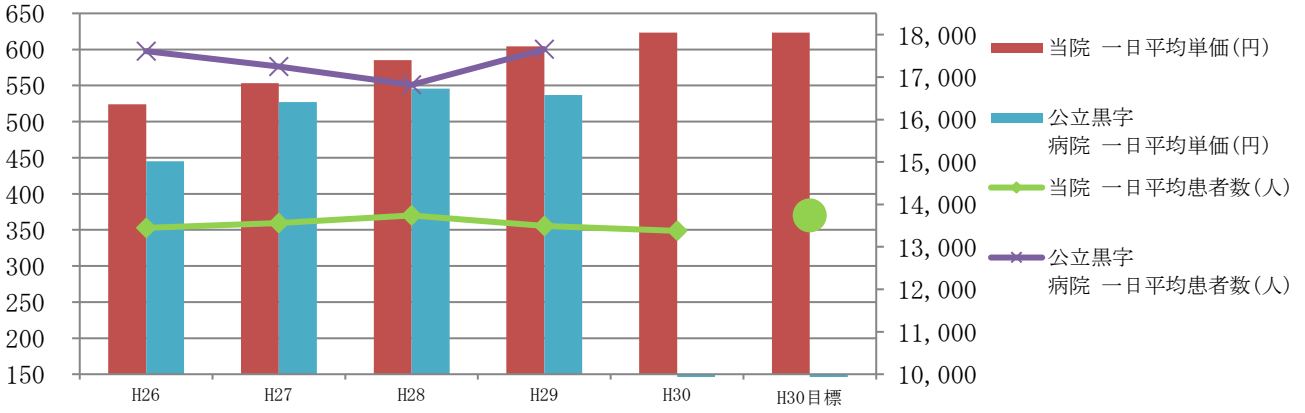
		H26	H27	H28	H29	H30	H30目標
当院	一日平均患者数(人)	223.1	225.7	227.5	229.4	230.6	237.0
	一日平均単価(円)	46,154	44,270	47,288	47,383	48,142	48,839
公立黒字病院	一日平均患者数(人)	226.3	224.2	222.7	233.9	－	－
	一日平均単価(円)	54,845	55,962	55,715	55,684	－	－



（５）外来患者数等　　＊公立黒字病院は274床換算

		H26	H27	H28	H29	H30	H30目標
当院	一日平均患者数(人)	353.0	359.3	370.0	355.6	348.6	370.0
	一日平均単価(円)	16,360	16,852	17,400	17,721	18,049	18,046
公立黒字病院	一日平均患者数(人)	598	577	551	600	－	－
	一日平均単価(円)	15,014	16,414	16,729	16,575	－	－

＊本院の特性である医師会との役割分担（2次救急以上等）を重要視している為、患者数は少ない傾向にある。



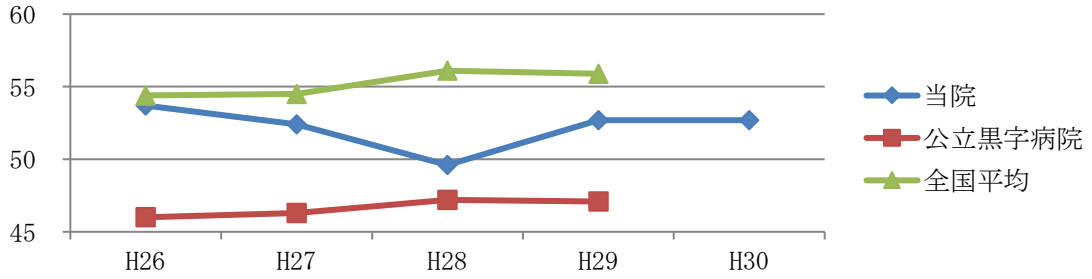
２章　直近５年の経営実績

１）主な経営指標の推移

（６）職員給与費対医業収益比率　（%）

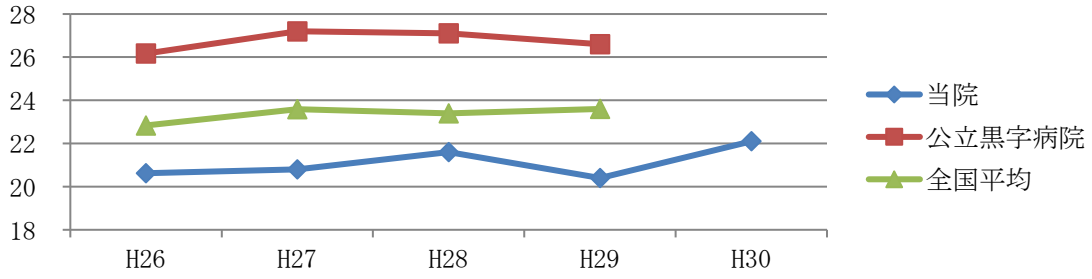
区分	H26	H27	H28	H29	H30
当院	53.7	52.4	49.6	52.7	52.7
公立黒字病院	46.0	46.3	47.2	47.1	－
全国平均	54.4	54.5	56.1	55.9	－

*決算統計上の給与とは、週労働時間が38.75時間の職員のみ(勘定科目とおり:60.3%)



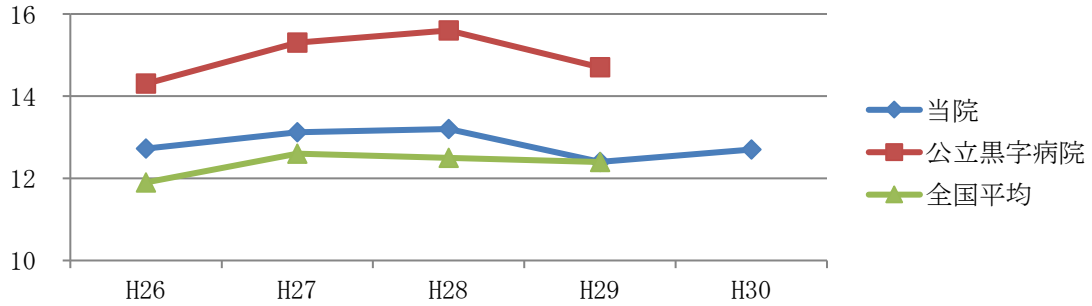
（７）材料費対医業収益比率（薬品含む）　（%）

区分	H26	H27	H28	H29	H30
当院	20.6	20.8	21.6	20.4	22.1
公立黒字病院	26.2	27.2	27.1	26.6	－
全国平均	22.8	23.6	23.4	23.6	－



（８）薬品費対医業収益比率　（%）

区分	H26	H27	H28	H29	H30
当院	12.7	13.1	13.2	12.4	12.7
公立黒字病院	14.3	15.3	15.6	14.7	－
全国平均	11.9	12.6	12.5	12.4	－

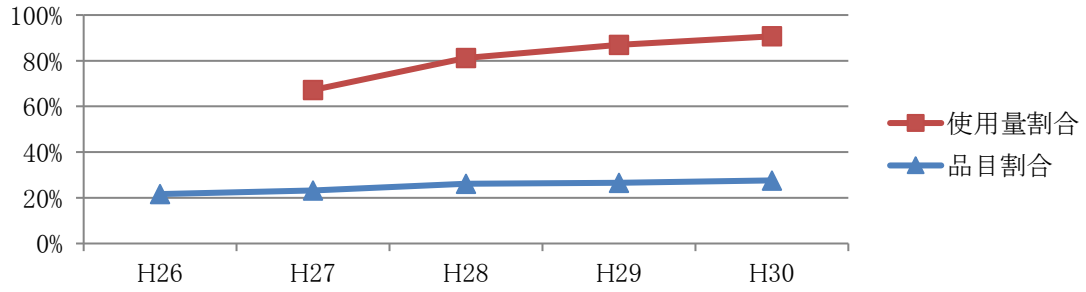


２章　直近５年の経営実績

１）主な経営指標の推移

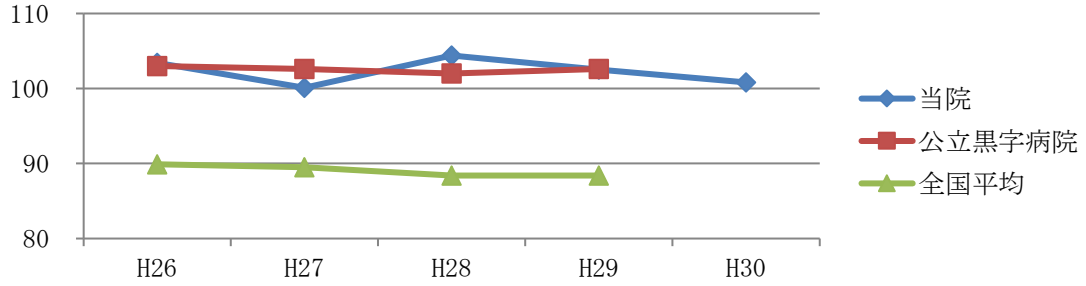
（9）後発医薬品の採用品目割合　　（品）

区分	H26	H27	H28	H29	H30
採用医薬品	1,646	1,574	1,575	1,562	1,510
うち後発医薬品	356	365	413	416	417
品目割合	21.6%	23.2%	26.2%	26.6%	27.6%
後発品のある先発品使用量	408,234	331,317	173,988	125,974	88,130
後発品の使用量	546,325	677,139	752,129	842,020	858,103
使用量割合	57.2%	67.1%	81.2%	87.0%	90.7%



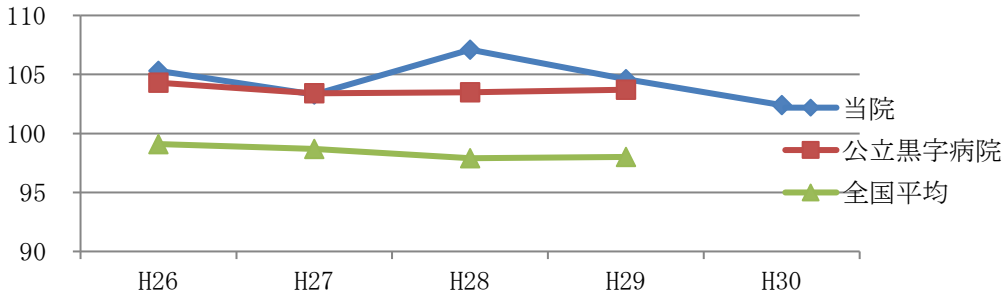
（10）医業収支比率　　（%）

区分	H26	H27	H28	H29	H30
当院	103.4	100.1	104.4	102.5	100.8
公立黒字病院	103.0	102.6	102.0	102.6	－
全国平均	89.9	89.5	88.4	88.4	－



（11）経常収支比率　　（%）

区分	H26	H27	H28	H29	H30
当院	105.3	103.3	107.1	104.6	102.4
公立黒字病院	104.3	103.4	103.5	103.7	－
全国平均	99.1	98.7	97.9	98.0	－

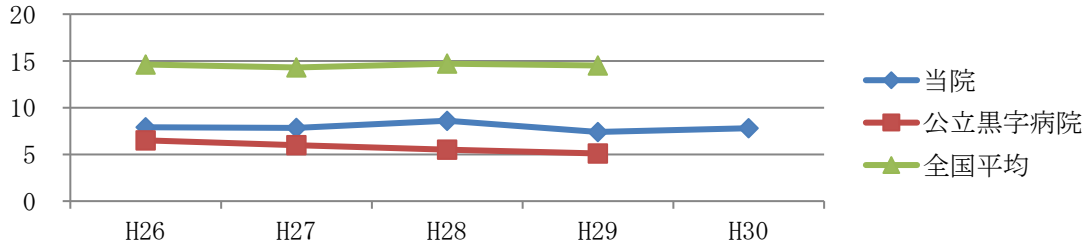


２章　直近５年の経営実績

１）主な経営指標の推移

（12）他会計繰入金対医業収益比率（収益的収支）　（%）

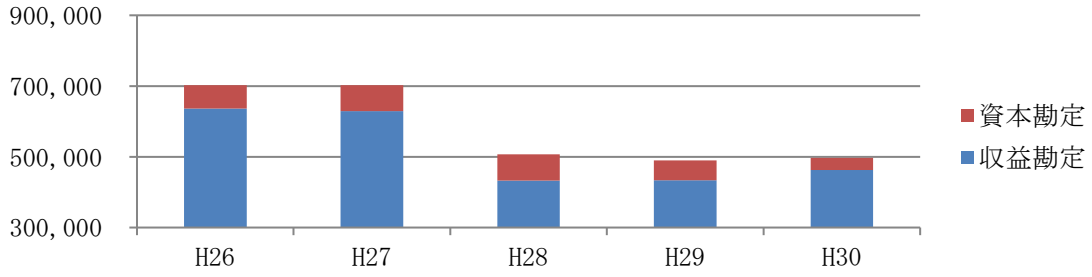
区分	H26	H27	H28	H29	H30
当院	7.9	7.8	8.6	7.4	7.8
公立黒字病院	6.5	6.0	5.5	5.1	－
全国平均	14.6	14.3	14.7	14.5	－



（13）他会計からの繰入状況　（千円）

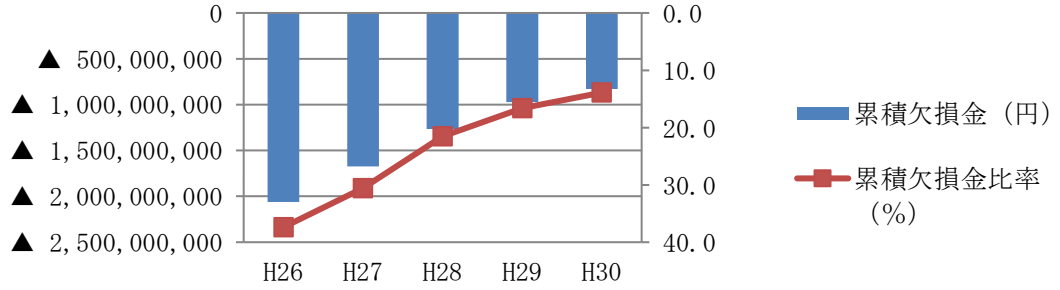
区分	H26	H27	H28	H29	H30
収益勘定	636,616	629,145	432,700	433,412	462,494
資本勘定	65,721	73,002	74,261	55,978	34,804
合計	702,337	702,147	506,961	489,390	497,298

*H28年より特例債償還に伴い、特例債（約２億円）に対する繰入金の減少



（14）累積欠損金

区分	H26	H27	H28	H29	H30
累積欠損金（円）	▲ 2,061,464,181	▲ 1,674,464,687	▲ 1,263,919,184	▲ 973,547,656	▲ 830,637,402
累積欠損金比率（%）	37.4	30.5	21.6	16.6	13.9



２章　直近５年の経営実績

２）診療実績

区分			H26実績	H27実績	H28実績	H29 当院実績	H29 黒字病院	H29 差	H30実績
病床100床当たり医業収益（千円）	入院収益		1,371,419	1,334,941	1,432,938	1,448,013	1,628,309	▲ 180,296	1,478,690
	外来収益		514,271	534,760	570,981	561,238	831,440	▲ 270,202	560,291
	その他医業収益		127,403	130,689	136,110	133,610	119,938	13,672	138,972
		内室料差額収益	4,354	4,674	4,524	5,005	23,642	▲ 18,637	5,555
	計		2,013,093	2,000,391	2,140,029	2,142,861	2,603,330	▲ 460,469	2,177,953
病床利用率（%）	一般		82.6	83.6	84.2	85.0	80.5	4.5	85.4
	感染症		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	計		81.4	82.4	83.0	83.7	79.7	4.0	84.2
１日平均患者数（人）	入院		223.1	225.7	227.5	229.4	219.5	10	230.6
	外来		353.0	359.3	370.0	355.6	563.3	▲ 208	348.6
患者１人１日当たり診療収入（円）	入院		46,154	44,270	47,288	47,383	55,684	▲ 8,301	48,142
	外来		16,360	16,852	17,400	17,721	16,575	1,146	18,049
平均在院日数（一般病床のみ）			17.5	16.7	16.0	16.0	19.7	▲ 3.7	15.4
医師１人１日当たり診療収入（円）			404,414	362,817	395,871	374,743	338,552	36,191	315,585
看護師１人１日当たり診療収入（円）			56,295	70,750	75,616	76,212	65,371	10,841	65,371
病床１００床当たり職員数（人）	医師		12.8	13.9	13.9	14.6	19.8	▲ 5	17.5
	看護部門	看護師	78.0	75.5	74.5	75.5	81.5	▲ 6	74.8
		准看護師	4.4	0.0	0.0	0.0	1.8	▲ 2	0.0
		看護助手	9.1	0.0	0.0	0.0	8.1	▲ 8	0.0
	薬剤部門		2.9	3.6	3.6	2.6	4.6	▲ 2	2.6
	事務部門		22.2	9.5	9.5	9.5	14.1	▲ 5	9.1
	給食部門		1.1	1.1	1.1	1.1	2.9	▲ 2	1.1
	放射線部門		4.4	4.7	4.7	5.1	4.7	0	5.1
	臨床検査部門		6.4	5.1	5.1	5.8	5.8	0	5.8
	その他		14.3	17.5	17.9	19.7	12.1	8	21.9
	計		155.6	131.0	130.3	133.9	155.4	▲ 22	138.0
平均年齢	事務職員		40.6	39.9	40.9	41.9	42.0	▲ 0.1	42.1
	医師		46.4	45.5	45.9	44.9	44.0	0.9	42.7
	看護師		38.4	38.9	39.2	38.8	39.0	▲ 0.2	37.1
	准看護師		－	－	－	－	51.0	－	－
	医療技術員		35.3	37.1	34.9	35.2	39.0	▲ 3.8	37.7
	その他職員		－	28.4	31.0	33.3	47.0	▲ 14	34.0
	計		38.7	39.0	38.9	38.7	40.0	▲ 1.3	38.2

＊黒字病院：自治体病院のうち医業利益がある病院（785病院中41病院）

＊職員数については、週労働時間が38.75時間の方が対象

＊職員数【その他】：リハビリテーション科、臨床工学科、社会福祉士、精神福祉士、介護士・・・等

２章　直近５年の経営実績

３）決算状況

区分			H26実績		H27実績		H28実績		H29実績				H30実績	
				(100床当)		(100床当)		(100床当)		(100床当)				(100床当)
										当院	黒字病院	差		
収益的収支	経常収益 A		5,798,250	2,116,150	5,828,884	2,127,330	6,213,190	2,267,588	6,203,070	2,263,894	2,741,060	▲ 477,166	6,274,049	2,289,799
		医業収益 a	5,515,874	2,013,093	5,481,070	2,000,391	5,863,679	2,140,029	5,871,438	2,142,861	2,579,687	▲ 436,827	5,967,591	2,177,953
		うち料金収入(b+c)	5,166,791	1,885,690	5,122,981	1,869,701	5,490,737	2,003,919	5,505,347	2,009,251	2,459,749	▲ 450,499	5,586,808	2,038,981
		入院収益 b	3,757,689	1,371,419	3,657,738	1,334,941	3,926,250	1,432,938	3,967,555	1,448,013	1,628,309	▲ 180,296	4,051,610	1,478,690
		外来収益 c	1,409,102	514,271	1,465,243	534,760	1,564,487	570,981	1,537,792	561,238	831,440	▲ 270,202	1,535,198	560,291
		うち他会計繰入金 d	204,654	74,691	213,390	77,880	217,779	79,481	218,140	79,613	46,345	33,268	230,274	84,042
		医業外収益	282,376	103,057	347,814	126,939	349,511	127,559	331,632	121,034	161,372	▲ 40,339	306,458	111,846
		うち他会計繰入金 e	231,962	84,658	288,757	105,386	289,182	105,541	215,272	78,566	101,896	▲ 23,330	241,544	88,155
	経常費用 B		5,506,878	2,009,809	5,641,046	2,058,776	5,800,175	2,116,852	5,927,748	2,163,412	2,642,956	▲ 479,544	6,129,554	2,237,064
		医業費用 f	5,332,139	1,946,036	5,473,155	1,997,502	5,617,881	2,050,322	5,729,089	2,090,908	2,514,356	▲ 423,448	5,921,430	2,161,106
		うち職員給与費 g	2,960,073	1,080,319	2,872,930	1,048,515	2,908,470	1,061,485	3,094,760	1,129,474	1,213,744	▲ 84,270	3,142,788	1,147,003
		うち材料費	1,137,180	415,029	1,139,465	415,863	1,266,812	462,340	1,250,892	456,530	696,816	▲ 240,286	1,295,219	472,708
		うち減価償却費 h	293,819	107,233	267,362	97,577	233,975	85,392	236,284	86,235	156,759	▲ 70,524	263,833	96,289
		うち委託費	416,103	151,862	446,148	162,828	445,550	162,609	403,948	147,426	216,987	▲ 69,561	458,906	167,484
		医業外費用	174,739	63,773	167,891	61,274	182,294	66,531	198,659	72,503	128,599	▲ 56,096	208,124	75,958
		うち支払利息	17,802	6,497	13,179	4,810	9,872	3,603	7,142	2,607	27,668	▲ 25,062	5,841	2,132
	医業損益 (a-f) C		183,735	67,057	7,915	2,889	245,798	89,707	142,349	51,952	226,704	▲ 174,752	46,161	16,847
	経常損益 (A-B) D		291,372	106,340	187,838	68,554	413,015	150,735	275,322	100,482	259,477	▲ 158,994	144,495	52,735
	特別利益		200,084	73,023	200,447	73,156	738	269	21,667	7,908	4,559	3,349	1,934	706
		うち他会計繰入金 i	200,000	72,993	200,000	72,993	0	0	0	0	136	▲ 136	0	0
	特別損失		1,431,707	522,521	1,286	469	3,207	1,170	6,617	2,415	16,903	▲ 14,488	3,519	1,284
	純損益 E		▲ 940,251	▲ 343,157	386,999	141,241	410,546	149,834	290,372	105,975	247,133	▲ 141,158	142,910	52,157
	繰入前 医業損益(C-d)		▲ 20,919	▲ 7,635	▲ 205,475	▲ 74,991	28,019	10,226	▲ 75,791	▲ 27,661	0	▲ 208,020	▲ 184,113	▲ 67,195
	繰入前 経常損益(D-d-e)		▲ 145,244	▲ 53,009	▲ 373,366	▲ 136,265	▲ 154,275	▲ 56,305	▲ 274,450	▲ 100,164	▲ 766,109	665,945	▲ 392,237	▲ 143,152
	繰入金 (収益勘定)　計 d+e+i		636,616	232,342	702,147	256,258	506,961	185,022	433,412	158,180	111,236	46,944	471,818	172,196
資本的収支	資本的収入(純計)		249,457	91,043	95,000	34,672	176,734	64,501	464,978	169,700	－	－	539,704	196,972
		うち企業債	147,400	53,796	95,000	34,672	163,200	59,562	409,000	149,270	－	－	503,700	183,832
		うち他会計繰入金 j	65,721	23,986	0	0	0	0	55,978	20,430	－	－	25,480	9,299
	資本的支出(純計)		720,552	262,975	590,366	215,462	474,123	173,038	669,700	244,416	－	－	846,145	308,812
		うち建設改良費	185,426	67,674	104,742	38,227	177,862	64,913	410,009	149,638	－	－	522,491	190,690
		うち企業債償還金	518,386	189,192	467,774	170,720	275,111	100,405	227,491	83,026	－	－	281,954	102,903
繰入金合計　計 d+e+i+j			702,337	256,327	702,147	256,258	506,961	185,022	489,390	178,609	148,377	30,233	497,298	181,496
減価償却前経常損益 D+h			585,191	213,573	455,200	166,131	646,990	236,128	511,606	186,718	416,235	▲ 229,518	408,328	149,025
経常収支比率　A÷B			105.3	－	103.3	－	107.1	－	104.6	－	103.7	0.9	102.4	－
医業収支比率　a÷f			103.4	－	100.1	－	104.4	－	102.5	－	102.6	▲ 0.1	100.8	－
職員給与費対医業収益比率 g÷a			53.7	－	52.4	－	49.6	－	52.7	－	47.1	5.7	52.7	－
他会計繰入金対医業収益比率 (d+e)÷a			7.9	－	9.2	－	8.6	－	7.4	－	5.7	1.6	7.9	－
不良債務額　(千円)			368,807	－	5,537	－	0	－	0	－	－	－	0	－
不良債務比率　(千円)			6.7	－	0.1	－	0.0	－	0.0	－	－	－	0.0	－
累積欠損金　(千円)			▲ 2,061,464	－	▲ 1,674,465	－	▲ 1,263,919	－	▲ 973,547	－	－	－	▲ 830,637	－
累積欠損金比率　(千円)			▲ 37.4	－	▲ 30.5	－	▲ 21.6	－	▲ 16.6	－	－	－	▲ 13.9	－

＊黒字病院：自治体病院のうち医業利益がある病院（777病院中37病院）

＊平成２６年度より地方公営企業会計基準が変更となりましたので、適用前後で考え方が一部異なります。